

中学生の「税についての作文」

大川税務署長賞

私達と税

大木町立大木中学校

三年 猪 口 愛 里

私達が支払っている消費税や、大人になって働くようになってきたとき稼いだお金にかかる所得税など納めることが当たり前になっていく税。そんな税を私は小学校高学年まで知らないと思っていました。

私はそのときまで「税」というものがよく分からず、何にどう使われているのかも分かりませんでした。「物の定価より多く支払っている」と私は考えていたため「無駄なお金」「いらない」と思っていました。しかし、この考えが小学校高学年のときに一変しました。税についての授業が行われ、税について知るきっかけができたからです。私はその授業でとある一本の動画を見ました。「税がなくなったらどうなるのか」という内容で男の子と女の子が、税が存在しない世界に行くという物語でした。私はこの動画を見て知らされませんでした。もし税がなかったら、警察官の方々が日々パトロールしてくださったり、落とし物を保管してくださっているのにも料金がある。道路の安全を守るためにある信号機が動かない。

普段みんなが遊んでいる公園も管理する人がいないため取り壊されてしまう。つまり私達の生活は税によって支えられている、そして守られているということ。私が今までいらなと思っていた物がこんなにも大切な物だったことに気づかされ、私は税を大切にしていこうと思いました。

それから私は税の歴史や国民には納税の義務があることを知りました。その他にも税は学校の教育、福祉、環境のために使われていること、税によって国の財政がずっと守られ続けてきたことを知り、私はこれからも税を大切にし、安全で安心できるような社会をつくっていききたいと思いました。しかし、税にも課題があります。消費税の高騰、国の税収より歳出が多くなってしまうという財政赤字の状態が続いてしまっているなどが見られます。この課題が改善されるように、これから税について学んでいこうと思いました。そして一人ひとりが税について理解し、安定した世の中になっていくてほしいです。

